

新病院長 ご挨拶

“大学病院の使命”に誇りとやりがいをもって

病院長 富田 勝郎



厳しい医療状況の真只中、病院長という大役を仰せつかりました。早くも文科省からの毎年2%（3.2億円増収）の経営改善義務命令の対策、厚労省からの診療報酬改定による3.16%減益見込みの対策をはじめ、乱数表のような数字表と見慣れぬ桁違いの金額に脅かされています。さらに、これまで整形外科の診療、手術や患者さんの喜ぶ姿のみを励みとしていた身にとって、院長室に座ってみると、大学病院全体として考えなければならない多方面にわたる大小の事柄や、耳目慣れない事務仕事、会議の多いことに改めて驚いています。ともかく一日も早く全体像をつかみたいと目下奮闘中です。

ところで今、社会は構造改革の嵐の中、改めて大学病院の現実を眺めてみますと、独立行政法人化と相まって医療にも大改革が強いられています。即ち“利潤追求と安定経営”が強く求められています。一方で、患者さんの医療に対する視線は年々厳しくなってきました。このようなままで進んでいけば、本来あるべき“献身的な医療の姿”が見失われていきはしないか、これからの医療はどうなっていくのか、と心配になってきます。しかしこのような時流にあればなおさらのこと、金沢大学病院は社会に対して確固たる“使命”を担っている、と自覚すべきではないでしょうか。“大学病院の使命”とは、“医は仁術”にはじまる献身的な精神のもとで、最高の医学的な知識と技術を駆使し、最善の治療を施す”という、理想的な医療を追求する姿、

つまりは患者さんにとって「大学病院が“最も頼りがいのある存在”であることであり、“最後の砦”ともなる救いの場であること」と思います。今こそ、医療に携わる私達はもう一度、医の原点を見据え、「患者さんは大学病院に何を求めているのか?」と、患者さんの立場に立ち、同時に“大学病院の使命”に誇りをもって、時流に惑わされることなく本来の医療を推進できるよう、方向舵を合わせる時と思います。

その具体的な方向（grand design）とは、金沢大学医療ゾーン（大学病院・医学部・がん研究所）が一丸となって、

- ①北陸における医療の中心的な役割を強化、確立する
（たとえば北陸の“がん診療拠点病院”の確立、など）
- ②高度先進医療を開発・推進する
- ③プライマリーケアから専門レベルに至るまでの医療を実践・教育する
- ④関連医療機関との連携を強化する、などであり、これに向かって努力したいと考えています。現在の金沢大学病院は「特定機能病院」に指定されており、832床の入院患者さんと1,800人の外来患者さんを、1,320人の医療従事者（医師500人、看護師520人、その他300人）で診療している「大戦艦」です。病院の推進力は、各分野・職場で献身的に汗している全職員です。患者さんの数の多さと病気の複雑さ、重症度からすればマンパワーは絶対的に足りず、オーバーワークはリスクにつながります。職員の皆さんが大学病院の使命を自覚し、誇りとやりがいを感じながら医療に携われるように努力したい。職員が意欲とゆとりをもって医療に尽くせるよう職場環境も整えていきたい。



病院長室にて

これらに向かって皆さんからお知恵をいただき、学長を始めとする金沢大学法人本部の方々の理解を求め、英知を結集して一歩一歩、前向きに進み続けていきたいと願っています。皆さんの力強いご支援とあたたかいご指導を心からお願い申し上げます。

新病院幹部のご紹介

～ 皆様のご支援とご協力を！～

平成18年4月に就任した理事と副病院長をご紹介します。

理事紹介



中村 信一

職員にとって働きがいがあり、患者さんから選ばれる病院に

この度、金沢大学理事（病院担当）・副学長を再度拝命致しました。

金沢大学では附属病院は大学の運営上極めて重要であると認識し、法人化当初から病院担当理事を設けました。病院の経営・管理運営は理事、病院長等からなる病院経営室会議において大学全体としての病院経営に関する方向性・基本方針を策定し、病院長を中心とする執行部が具体

の方策を策定の上、病院の運営にあたることになろうかと思えます。附属病院の重要な使命である教育研究と整合性を取りつついかに経営を行うか難問山積みですが、富田病院長と二人三脚で、職員が働きがいがあり、患者さんから選ばれる病院であるよう、新たな創造に努めたく存じます。どうぞ宜しくお願い致します。

副病院長紹介



松井 修

診療担当

「診療の現場での、潤滑油のような役割」を念頭に

この度富田新病院長のもとで副病院長・診療担当を努めることになりました。

前小泉病院長のもとでの副病院長・経営担当に引きつづいて2期連続ということになります。能力が無く、案の定“経営”担当としては失格で小泉前病院長には御迷惑をおかけしました。今回は、診療の現場での潤滑油のような役割を、という新病院長の要請でお引き受けしました。

放射線科として多くの科と万遍なくお付き合いがありますのでこれなら力になれるかと思った次第です。大きな変革の時代で問題は山積していますが、大学病院が患者さん・スタッフ・研修医から愛され・信頼される臨床病院となることがこれらの解決の基本ではないかと思えます。前期の経験を生かし継承しながら、こうした点に意欲を注いでいきたいと思えます。



古川 侃

経営管理担当

現代の「変化する不確実な時代」を乗り切るためには

この度副病院長の立場から病院経営管理を掌理し病院長を補佐することになりました。当面の課題は経営改善係数、効率化係数、診療報酬改定等への対応と、病院収入の増収と経費節減に努めることです。経営企画部の充実と経営分析の強化も必要です。

とにかく現代は猛烈なスピードで「変化する不確実な時代」です。リチャード・フォーティの

「生命40億年全史」からの引用では、人類の歴史は46億年の地球の歴史を1週間に置き換えると1秒という瞬間でしかありません。確かなのは、この先も変化は続くということのみです。この先、運命の歯車に翻弄されながら、いろんな危機に遭遇するでしょうが、人類の叡智のみがこれを解決するでしょう。

Message of the Staff



山本 健 安全管理対策担当

「患者さんが自分の家族ならばどう説明するか、どう処理するか」を意識して

この度副病院長を拝命しました。医療安全管理部長として、分校久志副部長、平林可寿子GRM、院内すべてのリスクマネージャ各位とともに、医療事故防止と職員の安全教育に取り組みます。医療安全管理部に寄せられる患者様からのクレームを読むに付け、医療トラブルの多くは、治療の内容よりも、患者さんやご家族の想いと、われ

われ医療者の論理が噛み合っていないために起こると感じます。「患者さんが自分の家族ならばどう説明するか、どう処置するか」を常に意識して診療に当たって頂くよう、お願いいたします。それがトラブルを未然に防ぐ、もっとも有効な方法です。



中尾眞二 人事・労務担当

「患者さんを守る」ために、まずこの病院を守り、さらに発展させること

この度副病院長として人事・労務を担当することになりました。私はこれまで旧第三内科の教員として17年間、本大学病院の内科・血液内科診療に携わってきました。この間、優秀なスタッフと環境に恵まれたおかげで、他の病院では治せない多くの難病患者さんの快復に寄与できたと思っています。ただ、昨今の医療体制の変革によって、患者さんに最高の医療を提供し

てきた金沢大学医学部附属病院はかつてないほどの危機に直面しています。

本院を頼って来院される患者さんを守るために、私達はまずこの金沢大学医学部附属病院を守り、さらに発展させなければなりません。微力ではありますがそのために尽力したいと思っています。よろしくお願いいたします。



渡邊 剛 広報・地域医療連携担当

最高の技術を提供する最終機関としてのブランドイメージUPが使命

この度、副病院長を拝命しました渡邊です。現在の大学病院は全国的にも大改革をせまられている状況にあります。研修医制度による、首都圏への医学部卒業後の研修医の集中による地盤沈下が激しく、多くの医学生は2年の研修を人生最後の楽園などと考えている動きも多いものと聞きます。我々が率先してcreativeでありinnovativeな仕事を見せ、大学病院を強くすることで金沢大学が再び元気になる日がやって来るものと信じています。

広報及び地域医療も極めて重要であり、地方の国立大学の使命として特に後者は重要な意味を占めています。従来よりも更に病診連携を強くし、ただでさえ大型医療機関の多い石川県の中でも最高の技術を提供する最終機関としてのブランドイメージを高めることも大事であります。その為にも有益な広報手段を通じてその良さを示すことが私の今回の広報担当としての使命と存じます。それでは宜しくお願い致します。

副 病 院 長 紹 介



宮本 謙一

薬剤担当

病院機能評価機構の認証更新に向け、
“病院機能向上委員会”の活動開始

薬剤担当副病院長として引き続き富田病院長を補佐する事になりました。医療チームの中で薬剤師が大いに能力を発揮して薬物療法の助言者として機能するように監督・指揮していく所存です。

また、“支出削減プロジェクト(通称、Project X)”のメンバーの知恵を結集して医薬品の適正管理、

適正使用を一層推進していきます。さらに、本院は、平成17年7月に病院機能評価機構の認証(Ver.4)を受けましたが、平成22年の認証の更新(Ver.5)に向けて“病院機能向上委員会”を目覚めさせて活動を開始いたします。各科および看護部を始めとする病院職員各位のご協力と覚悟の程をよろしくお願いいたします。



小藤 幹恵

看護担当

変わらない大切なこと、
それは患者さんと家族のための質の高いケア提供

昨年、病院長補佐を拝命し病院の管理経営チームの一員として歩み始めたところですが、本年度、副病院長(看護担当)に任命され、変化の大きな時代の中で、院内の様々な職種の皆様と協働して病院を発展させていく重要性が一層高まっていることを認識しているところです。

変化の中にあって変わらない大切なこと、患者さんと家族のために質の高いケアを提供すること、このことを費用効率のよいケア提供方法を創造していく中心に据え、病院の目標達成に重要な意味

を持つ看護師のニーズや懸念、可能性を、病院全体の意思決定のプロセスに組み込むこと、また、看護師が急速に変化する環境によりよく適応できるように責任を果たせるように努力していきたい。改めて、院内のいたるところで24時間365日絶え間ないケア提供の最前線を担う看護部門の持ち味をどのように発揮させていくかを問われている立場として身のすくむ思いですが、病院長はじめ皆様の温かいご支援のもとスタートできたこと感謝しています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



市村 昇一

事務担当

病院長の思いの実現に向けて、
柔軟に素早く対応できる体制を

この度副病院長の職を命じられました。病院長が意志決定をするにあたり、病院執行部の一員としてさらに責任が重くなったものであり、事務担当である私の役割としては、事務組織が病院長の思いの実現に向けて柔軟に素早く対応できる体制を整え実施することだと理解しております。

今年度は、経営改善係数2%の達成及び診療報酬3.16%の減額並びに総人件費改革への対応など、本院を取り巻く環境には非常に厳しいもの

があります。

この難局を乗り越えるためにも、今年度新たに実施した事業の評価・改善等を不断に行うこと及びさらなる事務業務の効率化を目指した事務組織改革、さらに新規事業として、がん連携拠点病院の指定を受けるための積極的アプローチと準備を行いたいと思っております。

最後に、本院の理念・基本方針の下、法人本部の経営方針と一体となった病院運営に取り組みたいと思っておりますのでご協力をお願いいたします。

Message of the Staff



ニ ュ ー フ ェ ー ス よ ろ し く お 願 い し ま す ！

期待と不安で始まった研修医生活。3名の新人先生にレポートをいただきました。



山本 隆介 充実した研修を送るためにも最も大切なことは、やはり自らの姿勢

期待と不安、そして医師としての第一歩を踏み出す大きな喜び。様々な感情とともに始まった研修医生活も早一ヶ月が過ぎました。現在私は旧第二内科の循環器内科にて研修中です。指導医の先生のみならず多くの先生方に御指導いただき、大変充実した研修を行うことができています。

今年度から金沢大学の卒後臨床研修制度は大きく変わろうとしています。その初年度の研修医として活発に意見を述べることにより、より良

い研修制度の確立に少しでも貢献できたと考えています。しかしながら、充実した研修を送るために最も大切なことは、研修制度自体ではなく、やはり自らの姿勢だと思います。尊敬する周りの先生方のような医師になれるよう、この2年間でしっかりとした土台を築くことができるよう努力していきます。

若輩者ですが、これからもよりしくお願いいたします。



正木 利憲 患者さんに「うまくなったねえ」と言われると、自分の成長を実感

金沢大学での研修が始まって早1ヶ月が経ちます。1ヶ月前は、どんな生活が待っているのだろうかと不安と期待に胸を高鳴らせていましたが、今では病院内を駆けずり回っている毎日です。

この1カ月間は、病院内の配置すら把握していないところから始まり、毎日の情報量の多さに頭がパンクしそうになったり、自分の不甲斐無さに凹んだりしたこともありました。それで

も採血の際に、患者さんに「うまくなったねえ」と言われると、少しは成長できたのかなと嬉しくなります。

指導してくださる先生、コメディカルの方々、患者さんにはまだまだご迷惑をかけてばかりですが、1日でも早く医師として成長し、皆様のお役に立てるよう頑張っていきたいと思っています。



松原 拓郎 「すみませんが質問してもよろしいでしょうか」というのが口癖

5月に入り研修医となってようやく1ヶ月が過ぎようとしています。いまだに院内のどこになにがあるのかすら良く把握できていない状況ですが、着実に時間が過ぎていることを実感しております。

私は現在旧第3内科にて研修を行なっております。毎日が新しい発見で、先輩の先生方や看護師の方に「すみませんが質問してもよろしいでしょうか」と言うのが口癖のようになっています。その度に丁寧に質問に答えてくださり「何か分らないことがあったらいつでも聞いてくださいね」と言ってくれる先生方や看護師の方々には頭が上がらず、この場所で研修が行なえていることの幸せを噛みしめています。

実際に働き始めて、医師という職業がいかに責任の重いものであるかということに気づきます。そして、不甲斐ない話ですが、研修医ができることというのは患者さんの訴えを満足させるには程遠いものだと思います。先日、医局の先生に「この薬の効果が出るために、君にしかできないことが一つある、この薬が効きますようにと祈ってから薬を投与することだ」といわれました。医師として自立し、自分ひとりで患者さんの管理を行なえる日が来るのはまだまだ先のことだと思います。しかし、いまは研修医にしかできないこともあるのだと信じ、全力でやっていきたいと思っています。

ふ れ あ い 看 護 体 験

3人の高校生と看護師志願の女性が看護を体験しました。
また、園児とともにふれあいのひとときを過ごしました。

副看護部長 広瀬 育子

日本看護協会では、ナイチンゲール生誕日の5月12日の前後一週間を看護週間として全国で看護体験など様々な行事を行っています。

当院でもふれあい看護体験として5月9日(火)3人の高校生と1名の看護師志願の女性の訪問を受け、病院長より辞令交付後、病棟での看護体験及びふれあいコンサートに参加していただきました。

これと同時に「プチナース・ふれあい訪問」として保育園(小立野善隣館愛児園)19名の訪問を受けました。これは園児達に「いのちの尊さ」をぜひ伝えたいと、助産師による紙芝居一生まれてきてくれてありがとうの鑑賞と母と子とのふれあい・新生児モデルのお世話を体験していただきました。

園児達は初めての病院にとまどいながらも窓越しの新生児を「目がかわいい」「ちょっとしわだらけ」「抱いてみたい」と感想をもらし、病

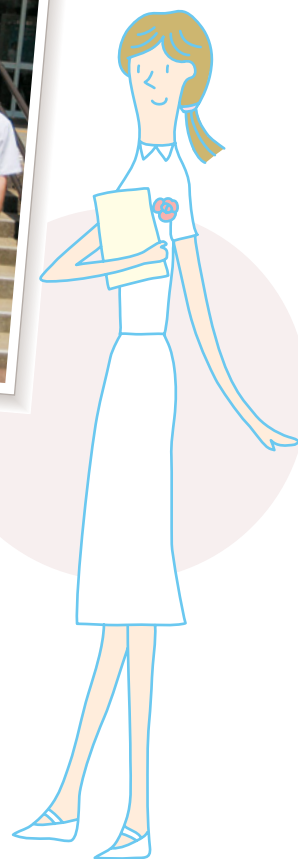


ふれあい看護体験に参加された皆様(前列左右4人)。

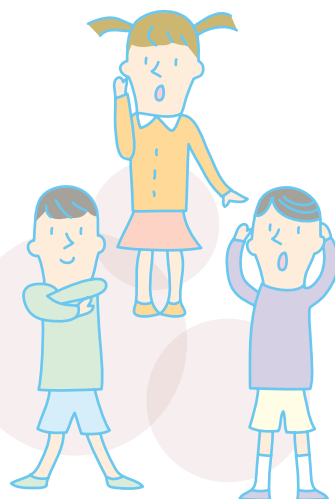
院長の「大きくなったら何になるのかな」の質問にかわいい手をあげ口々に答えていました。

そして「自分が生まれた時の事をおかあさんに聞きましょう」と約束し体験を終えました。

幼児へのふれあい看護体験ははじめての試みで、取り組みや準備が大変ではありましたが、いのちの誕生・尊さについて十分伝えることができた「看護の日・ふれあい看護体験」でした。



園児を前にこやかに挨拶する富田病院長(左)と小藤看護部長(右)。病棟5階カンファレンスルームにて。



看護部からのお知らせ

“ハートフル・フレッシュ・リーフ・マーク”にお気付きですか？

副看護部長 広瀬 育子

新人看護師が新しい職場で働き始め約1ヶ月がたちました。今年は50数名の新入看護師を迎え、各部署では1名から3名のフレッシュナースがチームの仲間入りをしています。気付かれたかたも多いと思いますが、本年度から新人看護師は写真のような新人マークのバッジをつけ業務に励んでいます。これは「ハートフル・フレッシュ・リーフ・マーク」と名付け、育てる先輩のやさしい気持ちと夢や希望に向かってひたむきに努力する新人の姿勢を表しています。

そして新人看護師が自立に向けた指導を必要とする期間をサポートするものです。看護師長からひとりひとりの胸につけられ、新人たちの笑顔が



新人マークバッジ。通称「ハートフル・フレッシュ・リーフ・マーク」



ハートフル・フレッシュ・リーフ・マークをつけ、先輩ナースと共に業務に励む新人ナース（右）。

患者さんのベッドサイドへ確実に届くようチーム全員で見守り励ますシンボルとして大切に育てていきたいと思います。

五色のジャケット ～予防衣をリニューアル

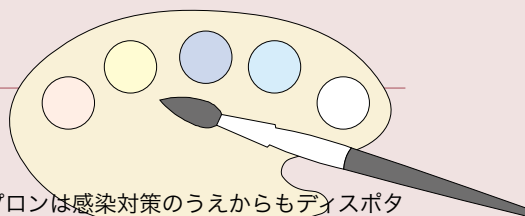
副看護部長 浦 美奈子

しました～

今年になってから、看護師が白衣の上にカラーのジャケットを着用しているのにお気づきでしょうか。主に防寒用に用いておりますが、これはこれまでの割烹着タイプの予防衣を変更したもので



す。エプロンは感染対策のうえからもディスプレイのプラスチックエプロンが使用されるようになり、また防寒用には白いカーディガンを着用しておりましたが、より衛生的に管理できることを考慮して変更することにしました。色は五色あり、職員一人一人が一色を選んで着用しています。職員にとってはウオームビズ、患者さんには癒し効果のパステルカラーです。スタッフステーションの白衣の中にパッとやさしい花が咲いたような色合いはいかがでしょうか。軽くて動きやすい素材のうえ保温効果もあり、冬場はもちろんのこと、真夏のクーラー対策にも一役買ってくれるユニホームになると思います。



外 来 化 学 療 法 室 オ ー プ ン

化学療法の場合が入院から外来中心へ。

外来化学療法室長 西村 元一

昨今の化学療法を取り巻く環境はインフォームド・コンセントの周知・患者さんのニーズ、DPCの推進など診療報酬の改訂、各疾患のガイドラインの出版などにより急激に変化してきています。その変化にともない化学療法の場合も入院から外来中心へと変わってきています。

今回、病院、看護部、薬剤部、検査部、各診療科のみなさまのご支援のもと外来化学療法室が設置されました。今まで各診療科の外来で忙しい中行なわれてきた化学療法が、一カ所に集約されたことにより、効率性および安全性の向上という医療者側にとってのメリットとともに、患者さんが『がん治療』に専念できるスペースができたということで、当院ががん拠点病院を目指す上での一つのハードルがクリアできたものと思います。

今後は更に、ソフトとハード両面から患者さんによりよい環

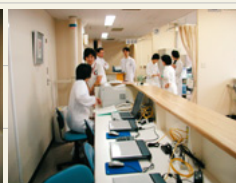


外来化学療法室長 西村先生（前列左から2人目）、副室長 笠原先生（前列左）

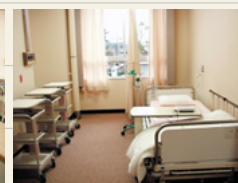
境を提供することを目指して、運営委員会を中心に各職種に力を合わせて頑張っていきたいと思っています。職員のみなさまにもいろいろご協力を仰ぐことがあると思いますが、よろしくお願いいたします。



受付カウンター（手前）



記録用カウンター



治療用ベッド（右）、室内には5つのベッド及び5つの治療用リクライニングチェアがある。

北陸地区で唯一のがん専門薬剤師が誕生しました。

薬剤部長 宮本 謙一

昨年度、日本病院薬剤師会は、薬物療法の中でも特に、がん化学療法、感染症対策、HIV治療の知識及び技術に優れ、地域医療の中でも指導的役割を担える病院薬剤師を専門薬剤師として認定し、これらの医療レベルの向上に資することとしました。そして、それぞれのチーム医療の中での役割を考慮して認定基準のハードルはかなり高いものとなりました。そして、結果として、全国で約40名のがん専門薬剤師が認定され、北陸ブロック（富山県、

石川県、福井県）からは本院の河原昌美副薬剤部長が第1期認定の栄を受ける事となりました。河原がん専門薬剤師には、今後の専門薬剤師認定試験委員など、院内だけでなく、地域、更には全国のがん化学療法の指導的役割が課せられることとなります。外来化学療法室の設置とあわせて、富田病院長が切望する“がん診療連携拠点病院”の指定獲得にも弾みがつくものと思われます。

各診療科
から心 肺 ・ 総 合 外 科 よ り
(旧 第 一 外 科)

別冊月刊現代 2006-2007年版

『医師がすすめる 最高の名医+治る病院』

に心肺・総合外科 渡邊剛教授が掲載されました。

心臓病の年間死亡患者数は約16万人。その約半数が狭心症、心筋梗塞などの虚血性心疾患であり、治療は主に心臓手術と心臓カテーテル治療とされています。近年、注目されている体にやさしい心臓手術について、渡邊教授がコメントし紹介されています。

「冠動脈バイパス手術の主な目的は、3つあります。まず1つは狭心症の改善。2つ目が新たな心筋梗塞の予防。3つ目が突然死の予防です。うまくいけば、心臓の発作に怯えながら一生を過ごすことはなくなります。」(渡邊教授)

冠動脈バイパス手術は、鉛筆の芯ほどの細い血管(直径1.5~2mm)を、髪の毛より細い糸で縫い合わせる手術で、糸のもつれや指先の狂いが、即、患者さんの死につながりかねません。また、吻合には時間上の制約もあって、遅くとも「15分以内」で血管を正確に縫い合わせるテクニックがなければ患者さんの容体はたちまち悪化してしまいます。確実、迅速な手術を行うことが「一流の技」といえるのです。

渡邊教授の現在までの心臓外科手術件数は約3,000例あり、その中でも、もっとも得意とする心拍動下冠動脈バイパス手術はまさに「体にやさしい心臓手術」といえます。この10年間に、手がけた1,150例の成功率は99.5%と非常に高く、うち1,145人は

手術後元気に歩いて退院されています。

さらに記事の後半では、心肺・総合外科で行われた渡邊教授による手術の実例を紹介しています。狭心症と診断された50代の男性に手術用ロボットも併用して行った心拍動下冠動脈バイパス手術の紹介で、患者さんは術後経過、術後検査も非常に良好で短期間で退院されています。

また、同誌には「心臓手術に強い全国50病院と名医」「心臓手術 名医が進める全国トップ16病院」として金沢大学医学部附属病院が紹介されました。渡邊教授はこれまでも多くの新聞、雑誌で取り上げられています。これらの記事は心肺・総合外科外来受付横と西病棟6回スタッフステーション前のパンフレットスタンドにありますので、興味のある方は是非そのほかの記事も合わせてご覧ください。(文責 石川紀彦)



手術風景 手術用ロボットを操作する渡邊先生(手前左)



手術用ロボット



手術台

Q&A

外 来 患 者 さ ん か ら の 質 問 に 答 え て v o l . 2

Q

最近食べ過ぎと運動
不足でお腹ができて
いるのですが…



内分泌・代謝内科長 武田 仁勇

A

ウエスト径が男性で85cm以上、女性で90cm以上の人は心筋梗塞や脳卒中など生活習慣病を引き起こすメタボリック症候群の可能性ががあります。ウエスト径以外に ①中性脂肪150mg/dl以上あるいはHDLコレステロール40mg/dl未満 ②収縮期血圧130mmHg以上あるいは拡張期血圧85mmHg以上 ③空腹時血糖値110mg/dl以上の三項目のうち二項目以上当てはまる場合にメタボリック症候群と診断されます。ヒップ径が大きくなるのが皮下脂肪肥満、ウエスト径が大きくなるのが内臓肥満です。腹部CT検査で臍レベルで撮影し内臓脂肪と皮下脂肪の面積を測定

する方法があります。ウエスト径で男性85cm、女性90cmは内臓脂肪100平方センチメートルに相当しています。最近の厚労省の発表では日本人40歳以上の男性では約半数、女性では5人に1人がこの病気になっています。内臓に脂肪が蓄積された原因がこれまでのエネルギー過多の食事と運動の不足にありますので治療は生活習慣を改善する事が基本です。脂肪を燃やすためには有酸素運動（脈拍100回／日程度でうっすら汗をかく程度の運動）を行います。15分続けた頃から脂肪が燃えますので30分程度の運動が望まれます。同時にすでに起きている循環代謝の異常については薬物療法が必要です。



受 賞 ・ 表 彰

●財団法人日本消化器病学会平成18年度研究助成
消化器内科 中本 安成
平成17年12月7日

●日本血液学会・臨床血液学会 若手血液臨床医教育プログラム優秀賞
血液内科 望月 果奈子
平成18年4月1日

●社団法人日本放射線技術学会技術新人賞
放射線部 林 則夫
平成18年4月8日

●平成17年石川県病院協会優秀研究賞
放射線部 高田 忠徳
平成18年5月20日

●日本臨床薬理学会認定CRC
臨床試験管理センター 横井 祐子
平成18年1月1日

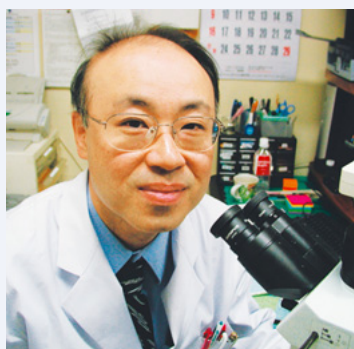
●日本病院薬剤師会がん専門薬剤師(第1期認定)
薬剤部 河原 昌美
平成18年3月4日

●日本臨床薬理学会認定CRC
看護部(臨床試験管理センター) 松田 静枝
平成18年1月1日

●日本臨床薬理学会認定CRC
看護部(臨床試験管理センター) 中本 美子
平成18年1月1日

●石川県病院協会優秀研究賞
看護部 龍口 さだ子
平成18年5月20日

RELAY ESSAY vol. 2



宇宙で最も美しい数値…黄金比

病理部長 湊 宏

1.618…。 $\frac{1+\sqrt{5}}{2}$ とも表現されるが、何の数字かはこのエッセイが読まれるころにはすぐに思いつく方も多いかもしれない。そう黄金比φ(ファイ)である。もう封切られているであろう映画「ダビンチ・コード」の話の中の小道具としてでてくるが、宇宙で最も美しいと考えられている数値でもある。ミツバチの群れにおける雄と雌の個体数比、ひまわりの頭花・バラの花びら・松かさの鱗片などの配置や、オウム貝の隣り合う螺旋の直径の比、ハヤブサの飛行コースなどすべて黄金比に一致するらしい。昆虫の分節比、人間の身長とへそから床までの高さの比、肩から指先までの長さの比と肘から指先までの長さの比

等多くの体の部分の長さの比も含まれる。その他、ミロのビーナスのバストとヒップの横幅の比、ギリシャのパルテノン神殿の縦横比、エジプトのピラミッドの高さと一片の長さの比など、例を挙げればきりが無い。蛇足であるが、我が家の家族の身長とへそから床までの長さの比は1.65～1.7の範囲であった。この数値が黄金比に近いほど脚が長く美しいと感じられるのであろうか。人が作ったものや見出した例の中には恣意的なものやこじつけもたくさんあるが、古代の建造物のなかには偶然そうなったものもあるであろうし、少なくとも自然界に存在するものは人間の仕業ではない。単細胞の有孔虫から銀

河のレベルまで存在するこの比率に不思議を感じるとともに、これらを見つけ出した、あるいは感じ取った古(いにしえ)の人たちの鋭い観察力、感性、好奇心にいまさらながら驚かされるのである。‘視野に入っている’ということと、‘見える’ということは‘0’と‘1’ほどの違いがある。見ようとしなければ決して見えてこない。このことはどんな領域でも共通であろうが、形態学を扱う病理診断に関しては、人間の目のあいまいさと可能性をつくづく感じる。忙しい日常にかまけず、古(いにしえ)の観察力に見習って日常の中の黄金比を感じる余裕も必要かと思う。

当院では寄附制度を導入しています。

寄 附 制 度 の ご 案 内

寄附制度について

金大病院は総合病院として、また特定機能病院として、患者さまに人間性を重視した質の高い医療を提供するとともに、将来の医療を担う医療従事者の育成と臨床医学発展のための研究開発や地域医療への貢献に努めております。このような活動を支えるしくみの1つとして、金大病院には寄附制度がございます。いただいた寄附金は金大病院の診療用機器や研究開発設備の充実をはじめ、さまざまな目的に活用させていただいています。ご賛同いただける場合は、担当までお声を掛けていただければ幸いです。



医療設備の充実



教育・研究費の助成



アメニティの充実

お申込方法について

寄附の申込は、下記の担当窓口までご相談ください。本制度のご説明及び必要書類をご用意させていただきます。

なお、ご寄附に当たりまして、病院全体への寄附や研究目的の寄附など使途をご指定いただくことができます。

担当窓口／経営管理課研究協力係

TEL 076-265-2090



1 担当窓口でお申込・ご相談ください



2 お申込書をご記入ください



3 担当窓口でお渡しください



4 領収書をお受け取りください

寄附者に対する税制上の優遇措置について

大学に対する寄附金については、法人税法及び所得税法に基づき税制上の優遇措置があります。

※寄附者が法人の場合は、法人税法上の「金額損金算入」を認められる指定寄附金として財務大臣から指定されています。

※寄附者が個人の場合は、所得税法上の「寄附金控除」の対象となる特定寄附金として、年間の総所得金額の30%を限度に、寄附金額から5,000円を差し引いた金額が所得から控除されます。

(注) この優遇措置を受けるためには、確定申告に際して大学が発行した領収書が必要になります。



編集・発行 金沢大学医学部附属病院 Kindai Hospital Today編集委員会(事務担当 病院総務課総務係)
TEL 076-265-2057 FAX076-234-4320 E-mail hpsomu@ad.kanazawa-u.ac.jp
皆さまからのおたより、ご意見等をお待ちしております。